

平成26年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる“ころ・技・からだ”が育つ学校 ー①もの創りの“ころ”と“技”を身につけた人づくりを目指す。②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。ー
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 2 基本的な生活習慣の確立と向上を推進する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髮指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 3 個々の生徒に応じた進路指導を充実する。 生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 4 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。小学校との交流及び地域の行事等への参加。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

年月	年度評価(1月22日現在)				達成度	次年度への課題と改善策
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標		
1	<ul style="list-style-type: none"> 成績の欠点数は減少傾向にあるが、成績不振者数は減少していない。今年度は、欠点数減少のために引き続き基礎学力の向上に取り組みとともに、成績優良者を増加するための取り組みを実践することが課題である。 資格取得に関しては、全校で取り組んでいるが、資格取得数が増加していないのが現状である。今年度は、生徒が資格取得状況を把握するシステムを改善するとともに、生徒の学習意欲を向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力向上のための取組 ②資格取得の意欲喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力向上のための取組を、各教科・学科が計画・実施・検証を行う。 ②1学年で、基礎学力を把握するためのテストを実施し、生徒自身に自分の学力を把握させるとともに、その後の学習指導に活用する。 ③各学期毎に、生徒に資格取得状況を把握させるための一覧表を配布し、生徒が新たな資格取得に向けて意欲的に取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力向上の取組を1学期に、成果と課題を3学期に一覧表にまとめて保護者に配布する。 ②1学年で、朝自習時や帰りのSHR時に漢字や計算問題等の小テストを行い、基礎学力を向上させる。 ③資格取得状況を把握する一覧表を各学期に配布する。 ④高校生専門資格等取得表彰者数を10%以上増加させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①全学年を通して基礎学力向上の取組を行うことができた。来年度は、継続して取り組むとともに、各学年が内容を工夫することが課題である。 ②資格取得状況システムを改善するとともに、活用方法を検討して生徒の学習意欲を向上させ、表彰者数の増加を図ることが課題である。
2	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は、遅刻指導週間の充実等に取り組んだが遅刻数の大幅な減少にはならなかった。今年度は、さらに遅刻指導に重点を置いた生徒指導を行うことが課題である。 問題行動は、1年生が大部分を占めるため、入学直後から全教職員が連携してきめ細かい指導を行うことが重要である。また、生徒への指導が一部の教員に偏る傾向があるため、全教職員が共通理解を持って組織的に指導に取り組む体制を構築することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導の継続的な実施 ②登下校・校内巡回指導の実施 ③退学者や問題行動を起こさない指導の充実 ④いじめの根絶への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ①全教職員が参加する遅刻指導週間を、年間を通して実施する。 ②登下校時の非行防止、交通安全、校内での安全を目的として、全教職員による立哨・巡回指導を行う。 ③退学者の減少、問題行動を未然に防止する指導体制を確立するために、生徒指導部が中心となり、担任・学年・学科と連携を図り、整容指導や生徒との面談指導を行う。 ④いじめ防止のために、生徒アンケート及び生徒・教職員対象の講演会・研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導週間を年間10回以上実施する。 ②遅刻者数を昨年度比10%以上減少させる。 ③登下校指導を年間10回以上実施する。 ④下校指導を年間10回以上実施する。 ⑤退学者数を昨年度比5%以上減少させる。 ⑥問題行動数(指導件数)を昨年度比10%以上減少させる。 ⑦生徒対象いじめアンケートを実施する。(7月・12月) ⑧生徒対象いじめ防止講演会を実施する。(10月) ⑨教員対象のいじめ防止研修会を実施する。(11月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、遅刻や問題行動の減少などの指導を継続して行うとともに、挨拶や携帯電話の使用手法など、生徒のマナーを向上させる指導を行うことが重要である。 ・退学者は、1年生が大部分を占めるため、入学直後から全教職員が連携してきめ細かい指導を行うことが重要である。また、中学校と連携を図り、不本意入学を減らし、目的意識を持って生徒を入学させることが課題である。
3	<ul style="list-style-type: none"> 近年、求人数が回復傾向にある中、本校では、未就職者を出さない指導として様々な方策を行ってきた結果、ここ数年は、就職率・進学率ともに100%を維持している。昨年度は、進路に対する意識の欠如から、就職や進学の実現を踏まえ、入学当初から組織的・計画的に進路指導を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①求人数増加のための企業訪問の実施 ②就職率・進学率100%の実現 ③教員対象の進路研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①求人数増加のために、進路指導主事・進路指導部教員による新規の企業開拓を実施する。(年間) ②全学年で、進路指導部と学年が連携した組織的・継続的な進路指導体制を確立する。 ③教員の進路に対する意識啓発を図るために進路研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①求人数を昨年度比5%以上増加させる。 ②進路指導部と学年が連携した進路指導を充実する。 ③1学年(企業人事課経験者による講演会等) ④2学年(インターンシップ、3年生による就職・進学講話、職業適性検査) ⑤3学年(進路ガイダンス、全教員による面接指導、朝自習時に一般教養・SPI検査の実施) ⑥就職率・進学率100%を実現する。 ⑦教員対象の進路指導研修会を実施する。(10月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、就職に関する環境が大きく変化し、昨年度と比較すると求人数が増加したが、一度の試験で内定ができる生徒数は増加していない。来年度は、求人情報の提供や進路決定時期の前倒しなど、生徒が早い時期に希望企業を選択し、試験対策へ時間を確保するなどの方策について検討したい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・保護者や地域住民が本校の教育活動に興味を持ち、理解を深めてもらうことにより、本校の認知度が向上し、学校のイメージアップや生徒募集にも繋がる。今年度は、生徒募集のために、学校説明会や体験入学を見直し、HPの積極的な情報発信を行う。また、地域の小・中学校との連携の強化を図り、地域の高校として貢献することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校外への積極的な情報発信 ②積極的・効果的な生徒募集の実施 ③緊急時の連絡体制の整備 ④開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学生や保護者に本校の教育活動を知らせるために、学校HPの更新回数を増加するとともに、学校PR資料を作成し、積極的に情報発信を行う。 ②意欲ある生徒獲得のために、近隣中学校に対し、全学科が参加した出前授業や他校と連携した出前授業を積極的に行う。 ③非常災害時の連絡や学校行事等の教育活動の情報を生徒・保護者に発信する。 ④地域住民や小学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校HPの更新回数及びアクセス回数を昨年度比5%以上増加させる。 ②学校PR資料を作成し(毎学期)、市内の中学3年生全員に配付する。(年度当初) ③全学科が参加する中学校への出前授業を実施する。また、他校と連携した出前授業を2回以上実施し、入学志願者数を昨年度比5%以上増加させる。 ④学校の情報メール配信システムを構築するとともに(年度当初)、保護者の75%以上が登録できるようにする。 ⑤地域の行事参加を2回以上、小学校及び児童センターとの交流を2回以上行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・体験入学の見直しや放課後のミニ説明会の実施 ・HPによる積極的な情報発信や地域の小・中学校との連携を図り、本校の教育活動を積極的にアピールしながら、生徒募集に関しても成果は上げられなかった。今後も創意工夫を継続し、地域の高校としての認知度をさらに高め、生徒募集につなげることが課題である。

学校関係者評価	
実施日	平成27年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習時に漢字・計算問題やSPIなどを学ばせ、基礎学力を向上させる取り組みはとても良いと思う。 ・朝自習は、各自が課題を持って取り組んでいる。また、分からない点などを互いに教え合うことができ、とても効果的である。 ・資格取得において、企業に動いている卒業生などに、仕事に対する心構えや就職後に必要な資格について話してもらう機会を設けたらよいと思う。
以前に比べて服装がだらしない生徒が減ってきたと思う。また、生徒の表情が明るくなり挨拶をしてくれるようになった。社会に出て挨拶は大切なことなので、みんなでできるようになってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数が減少してきているのはとても良いことである。日頃の生徒指導の成果が出ていると思う。 ・生徒が遅刻防止に自主的に取り組むために、「遅刻しないように努力する日」の設定や、友達同士で何となくしているという環境作りが大切であると思う。
企業に入ってから、向上心を持って仕事に取り組めることが大切である。入社後の3年間が重要であり、その後の仕事につながっていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・会社では、顧客や社員とのコミュニケーションがしっかりとれることが重要である。また、楽しく仕事ができることが大切なため、コミュニケーションやチームワークについての指導が必要だと思う。 ・若い人に欲しいのは「元気」「やる気」「コミュニケーション」である。技術は入社後からでも教えられるので、意欲を持って仕事をする大切さを教えてほしい。